BiPHかわらばん 5号

BiPH Bridges in Public Health

【ごあいさつ】

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

会員のみなさまには、これまでもお知らせしてきましたが、JICAの草の根技術協力事業（支援型）*次ページ注）への提案が採択されました。これまでご支援いただいたみなさまに、深く感謝いたします。

現在、採択されて提案をもとに事業を開始すべく、カウンターパートである東ティモールのパーツ大学、委託者となるJICA中部とともに、東ティモール保健省からの了承取り付け、業務委託契約締結のための準備中です。2月末には、JICAの担当者とBiPH事務局長による事前調査も予定されており、今年度半ばの事業開始を目指しています。進捗状況は、ウェブサイトやこのかわらばんで、随時ご報告する予定です。

引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。（代表理事：樋口倫代）

【年次総会が開催されました】

2019年11月22日（金）にBiPH定期年次総会が開催され、次年度の活動計画と予算案が承認されました。また、海外プロジェクトのスタートに当たり、現理事3名に加えて新理事2名が追加承認されました。今年度の大目標は海外プロジェクトの円滑スタートです。引き続きご支援のほどよろしくお願いします！

（事業報告書ならびに決算報告書は当法人ウェブサイトでご覧いただけます。）

【海外プロジェクトはじまります！】

開始予定の事業名は、「パーツ大学における『住民ニーズに基づく保健実践』のための教育強化プロジェクト」。住民のニーズを把握し、そのニーズに基づいた保健プログラムを草の根レベルで実践することができる人材育成を支援します。

プロジェクトで着目するのは、保健データ。保健データは、単なる記号や数字ではなく、ひとりひとりの健康と命の象徴です。プロジェクトでは、「保健データを大切にし、それを活用することが、人びとの健康につながる」という価値を共有していきます。

では、なぜ現場の保健ワーカーではなく学生を支援するのか？その理由はSDGs。BiPHのプロジェクトはSDGsのターゲット3.8「UHCの達成」と、ターゲット17.18「質が高く、タイムリーかつ信頼性のあるデータの入手可能性向上」を、草の根レベルからささえることをめざしています。卒業生の就職先は政府からNGOまで幅広く、分野も多岐にわたります。データから住民の健康ニーズを読み解き、プログラムにつなぐことのできる人材を、保健・医療・教育・まちづくりなど様々な方面に送り出すのがねらいです。

*注）草の根技術協力事業とは、日本の団体が提案する国際協力活動を、JICAが提案団体に業務委託して実施する共同事業です。多様化する開発途上国のニーズに対応すべく、草の根レベルのきめ細やかな協力を行うもので、人を介した技術協力、地域住民の生活改善に役立つ事業、日本の市民の国際協力への理解・参加を促す機会ともなること、等が特徴です。詳細はJICAウェブサイトで。

草の根技術協力事業って何？https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/what/index.html

【豆知識：健康の社会的決定要因】

アフガニスタンで長らく活動されていたペシャワール会の中村哲先生が、アフガン人の仲間とともに2019年12月4日に亡くなりました。

連日そのことがニュースとなる中、「用水路を拓く医者」として紹介され、「100の診療所より1本の用水路を」という生前の訴えが何度も引用されました。

中村先生は、診療活動とともに、水、教育、農業といったことに取り組まれてきました。「私は医療関係者だが、薬だけでは健康は守れない。」まさに、健康の社会的決定要因に対する取り組みを実践してきた方と言えるでしょう。

近年少しずつ注目されている「健康の社会的決定要因」ですが、その源流であるとされるオタワ憲章の「健康の前提条件」（1986年）では、いちばん最初に「平和」をあげています。「健康の社会的決定要因」に関するWHOの報告（2008年）では「日々の生活環境を改善すること」と共に、一見健康とは関係なさそうな「不公平な権力、金、資源の分配と闘う」ことも提言されています。

何人も、中村先生にはおよぶことはできませんが、日本で、世界で、健康をどう守っていくか改めて考え、それぞれが遺志を継いで行ければと思います。

【勉強会報告】

＊毎回の勉強会は、ウェブサイトとFBで詳しくご報告しています。

7月26日：多様性の中の統一
～量的研究と質的研究の両方を経験した私が選んだのは？～

スピーカー：榎木美樹さん（名古屋市立大学人間文化研究科准教授）

学生時代にインドと出会い、外務省・JICA・NGOを経て量的研究と質的研究の両方を経験した榎木さんがたどり着いたのは、質の世界を軸にした、領域横断的な「地域研究」。そこに至る経緯、それぞれの研究手法の長短およびそれぞれの研究手法をハイブリッド化する可能性等々をお話しいただきました。

量的研究は数値化されてわかりやすい反面、回答者がその回答に至るプロセスは反映されません。だからこそ、調査者はデータを取る際の状況や、回答者の背景に十分配慮し、ひとりひとりの気持ちに寄り添うことが必要だとわかりました。

9月12日：People's Health Assembly（民衆のための保健会議）って何？
～第4回PHA＠バングラデシュへの参加から～

スピーカー：宇井志緒利さん（立教大学大学院キリスト教学研究科特任教授）

PHAはPHM（People's Health Movement：保健に関する活動家や研究・教育・市民団体と個人によるネットワーク）が主宰して数年毎に開催されています。宇井さんは2018年の第4回大会に参加。WHOのアスタナ宣言への批判的提言がでたことなど、会議の様子がシェアされました。

健康格差問題は、決して途上国の問題ではありません。日本に住む我々自身にも大きく関わる問題です。だからこそ、「日本の団体や個人がもっと発信できるようにしたい」と宇井さんは話されました。

11月22日：
EPA（経済連携協定）ベトナム人看護師候補者の移動労働の現状と未来

スピーカー：近藤麻理さん（関西医科大学看護学部教授）

EPAは貿易や人的交流など多分野で経済関係強化を定めた協定で、この中には看護師の受け入れも含まれています。

近藤さんによると、EPA看護師候補者を受け入れた経験のある病院では、継続して受け入れを希望することが多いとのこと。彼らと共に働くことは、職員のスキルアップや患者層の拡大につながるなど、日本の看護師や医療従事者へのメリットも大きいようです。

移動労働が世界的な潮流となっている昨今、日本でも外国ルーツの医療従事者と関わる機会は増えています。彼らがどんなプロセスを経て目の前にいるのか、そんなことを想像するきっかけになりました。

【今後の勉強会予定】 ＊詳細は随時HPやFBページでご確認ください

回	日時	テーマ	担当	会場
64	2月7日(金) 18:30～20:00	作業療法士が当事者になって見えたこと ～人工呼吸器をつけて地域で暮らす～	押富俊恵 (特活)ピース・トレランス代表	名古屋市立大学看護学部 4F402教室
65	3月27日(金) 18:30～20:00	日本に暮らす海外ルーツの人達の医療アクセス ～多文化ソーシャルワーカーと通訳の立場から～	神田すみれ (多文化ソーシャルワーカー、コミュニティ通訳者)	昭和生涯学習センター 第3集会室
66	5月29日(金) 18:30～20:00	海外事業キックオフ ～パーツ大学における「住民ニーズに基づく保健実践」事前調査とプロジェクト計画～	BiPH事務局	昭和生涯学習センター (予定)
67	8月上旬 (予定)	パーツ大学におけるPHCリソース人材育成の現状と課題 (決まり次第HPでお知らせします)	パーツ大学公衆衛生学部教員 (逐語通訳あり)	JICAなごや地球ひろば (予定)
68	9月	未定 (決まり次第HPでお知らせします)		

名古屋市立大学看護学部　〒467-8601　名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
（アクセス：地下鉄桜通線桜山駅3番出口すぐ）
https://www.nagoya-cu.ac.jp/access/sakurayama.html

昭和生涯学習センター　　〒466-0023　名古屋市昭和区石仏町1-48
（アクセス：地下鉄鶴舞線及び桜通線「御器所」駅2番出口南約300m）
http://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000051930.html

JICAなごや地球ひろば　〒453-0872　名古屋市中村区平池町4丁目60-7
（アクセス：名古屋駅から徒歩13分、またはあおなみ線ささしまライブ駅徒歩5分
https://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/information/access.html

【会員募集】

当会は活動にご賛同いただける会員の皆様方からの会費で成り立っています。ぜひ会員としてご支援ください

会員の種別、払込先は以下の通りです。詳細はホームページ等をご覧ください。
個人正会員3,000円/年、個人賛助会員3,000円/年、法人会員30,000円/年
振込先：ゆうちょ銀行　00870-9-126227　シャ)ブリッジズインパブリックヘルス

【事務局より】

ニュースレター編集中の2019年秋から冬にかけて、緒方貞子さんと中村哲さんが天に召されました。直接の面識はなかったですが、私にとっては北極星のような存在、国際協力に携わるうえでの道標でした。報道を目にするたびに、講演会等で拝見した、小柄ながらも情熱を感じさせる語り口を思い出します。緒方さんや中村さんが目指した、誰もが安心安全に暮らせる社会を、私たちは作れているのでしょうか？(事務局長：石本馨)

会報「BiPHかわらばん」2020年1月号（通算5号）
発行：一般社団法人Bridges in Public Health
代表理事：樋口倫代
〒467-0027　名古屋市瑞穂区田辺通1丁目22番地2
TEL：052-846-5878　　E-mail：biph-adm@umin.ac.jp
URL：http://plaza.umin.ac.jp/biph
FB page：：https://www.facebook.com/biph.adm/

BiPH
Bridges in Public Health